

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第 50 週（12 月 11～17 日）の推定患者数は約 22 万人と大幅に増加。第 51 週は更に増加して 40 万人近い患者数となることが予想される』

2017 年 12 月 19 日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2017/2018 年シーズン）の 2017 年第 50 週（12 月 11～17 日）のインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>）によると 218,886 であり、前週（第 49 週）の値（116,132）の約 1.9 倍の増加となりました。また、第 42 週以降 9 週間連続して増加が続いています（図 1）。休日明けの月曜日（12 月 18 日）の推定患者数は 73,445 と今シーズンの 1 日当りの最多数を大幅に更新しており、第 51 週もインフルエンザの患者数は更に増加することが予想されます。

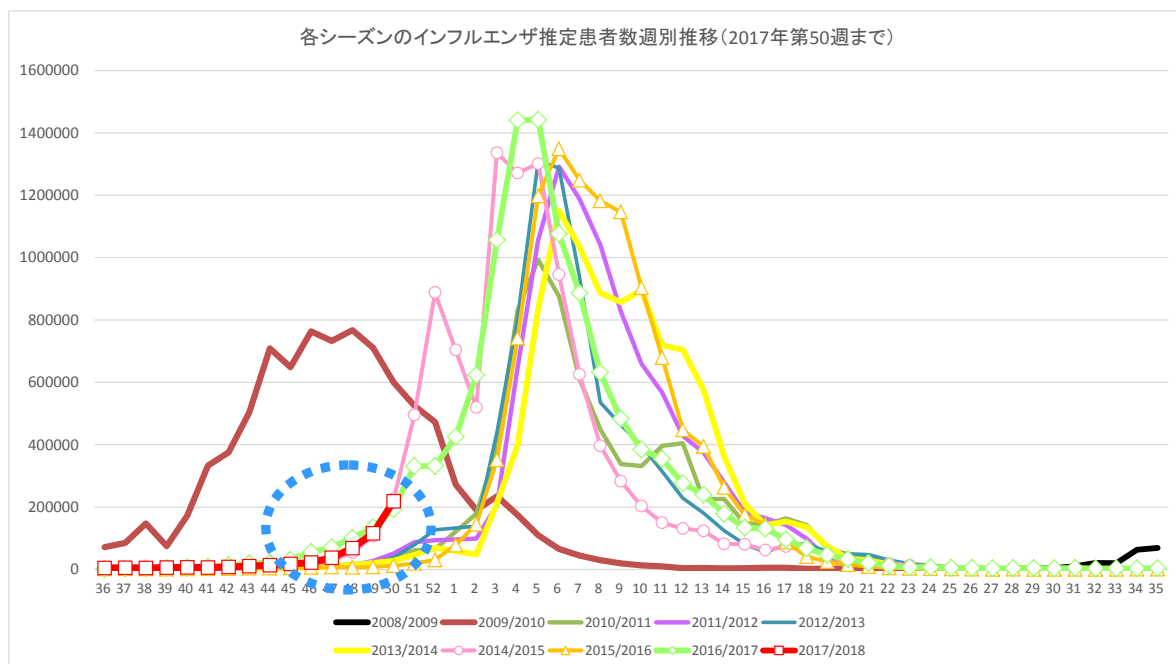


図 1. 過去 7 シーズンと今シーズン（2017/2018 年シーズン）の第 36～第 50 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2017 年第 50 週の推定患者数=218,886）

各都道府県別の第 50 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると北海道、大分県、岡山県、大分県、福井県、広島県、栃木県、滋賀県、長野県、佐賀県、宮崎県の順となっており、福井県を除く 46 都道府県で前週の値よりも増加がみられています。

2017年第36週から第50週までの累積の推定患者数は546,742であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は0.43%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳（2.61%）、10～14歳（1.52%）、0～4歳（1.28%）、15～19歳（0.45%）、30～39歳（0.39%）、40～49歳（0.35%）、20～29歳（0.26%）の順となっていて、14歳以下が流行の中心であることに変わりはありません（図2）。

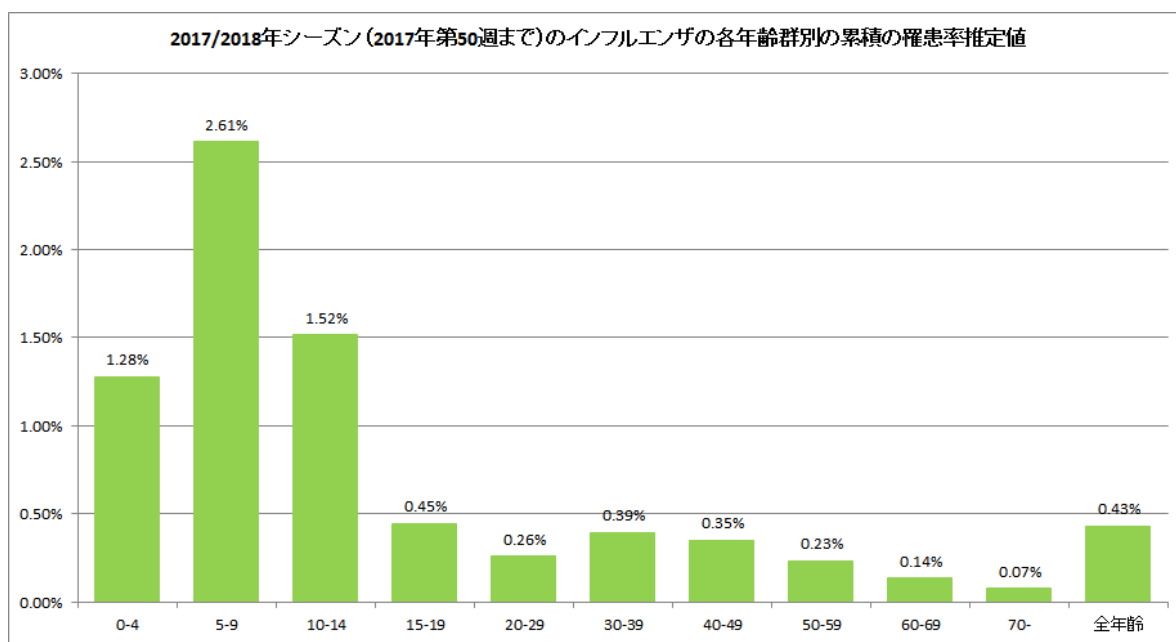


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017年第36～2017年第50週、累積推定患者数= 546,742)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（514 検体解析）は、A/H1pdm 50.6%、A/H3（A 香港）亜型が 25.3%、B 型 24.1%の順となっていて、AH1pdm が流行の中心となりつつあります。

第50週のインフルエンザの推定患者数は約22万人となりましたが、第51週では40万人近い患者数となり、12月中としては比較的大きな流行となることが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には十分な注意が必要です。